

第 1517 回 ZC 訪問例会



令和 5 年 9 月 12 日 (火) 金沢ニューグランドホテルにて、334D 地区 4R3Z ゾーンチェアパーソン 乗地茂勝様、副ゾーンチェアパーソン 桑島敏彰様、地区マーケティング・コミュニケーション委員の 沖野陽平様をお招きして第 1517 回 ZC 訪問例会が開催されました。

細川会長の挨拶では、ガバナー諮問委員会に参加したことを報告して下さいました。

ガバナー諮問委員会では、国際会長の方針として、全世界でライオンズクラブの会員を 150 万人にすること。それに伴い小出ガバナーの方針として、各クラブ純増 1 名にすること。LCIF では、1 会員 100 ドルの献金をする事等を目標にすることを報告されました。また金沢文化ホールで歌謡教室の発表会にて「心の真んなか母がいる」を歌ったことを報告されました。なんでも、若返りと認知症対策には、食事・運動・睡眠が大切ですが、それだけでなく、歌うことによって、いわゆる幸せホルモンが分泌されより効果的になるそうです。そして、最後に川柳を 2 句、【紙とペン持ってきたとき句忘れ】【孫の前シンガーオンステージ鼻高し】を紹介されました。ゾーンチェアパーソンの乗地茂勝様の挨拶では、去年 334D 地区で 146 名の会員が減ったことを踏まえ、小出ガバナーの目標である各クラブ純増 1 名のお願いと、献血アクティビティの強化を述べられました。



各種報告 PR 事項では、社会奉仕委員長の東龍盛 L が「ヘルメット普及運動」について、幹事の多田浩人 L が清掃活動及びヘアドネーションについて PR されました。

そして、9 月お誕生日ならびに結婚記念日を迎えられた方々のご紹介が終わったあと昼食タイムになりました。



本日のスピーチは、当クラブの第一副会長である浦田東一 L が、21 世紀「コロナ後」のライオンズクラブがあるべき姿を考えることを主題に、334D 地区クラブ三役研修会の報告をして下さいました。



21 世紀になって、市民の興味、関心、喜ぶカタチが劇場観客型（観る側）から劇場キャスト型（演じる側）に変化してしまったので、「従来の支援金贈呈」や「物品の贈呈」を主体にしたアクティビティではなく、その変化に対応した参加型アクティビティが成功を収めている。また、参加型アクティビティの質や効果を高めるために必要な人を探すことは、そのアクティビティを強化することができるだけではなく、その人を入会招請することで会員増強にもつながるので、金沢東ライオンズクラブでも一考していいのではないかと提言して下さいました。



最後にテールツイスターの永野琢也 L が登場し、ドネーションの発表をして第 1517 回 ZC 訪問例会は終了しました。

アクティビティ便り

9/21 (木) 地区統一交通安全開アクティビティ「ヘルメット普及運動」が実施されました。途中、暴風雨に見舞われ、過酷なアクティビティと成りましたが、参加者全員無事に終わることが出来ました。



(記事: 中村吉興計画委員長)